加熱時の重量変化だけでなく
反応生成物の検出が可能

お手持ちのGC-MSに接続可能

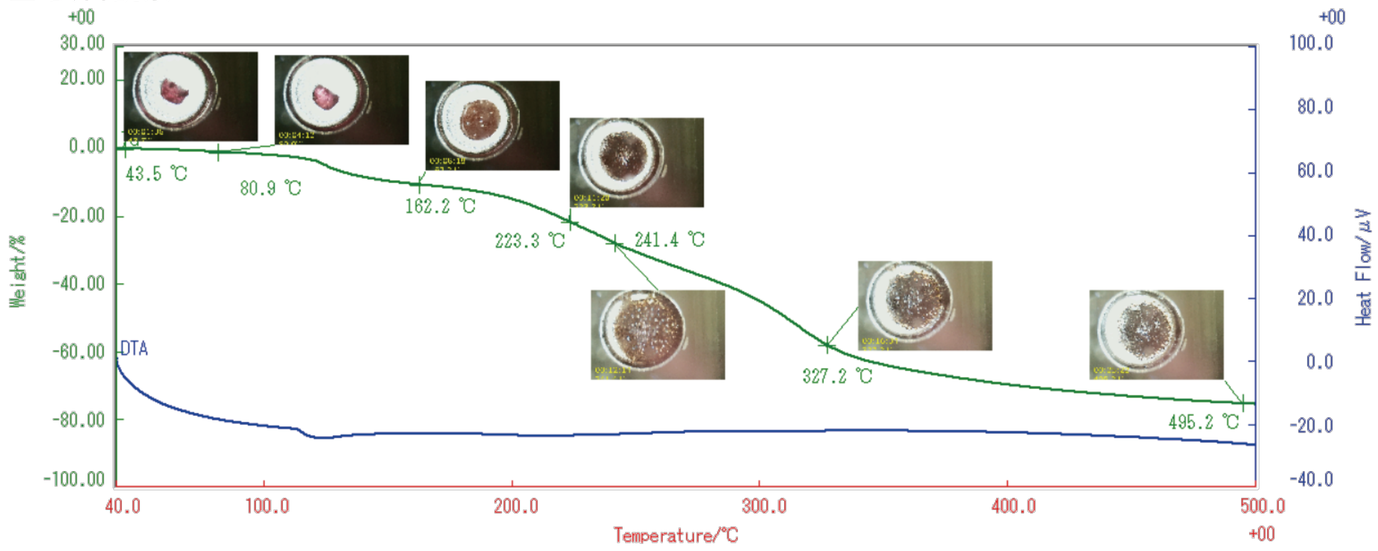
STAvesta + GC-MS

お手持ちの GC-MS をそのまま活用

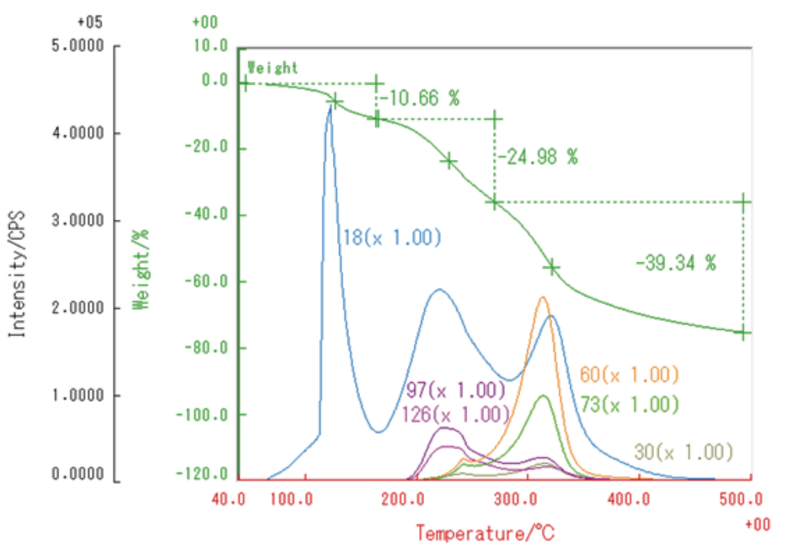
- GC-MS メーカーを限定することなく、ほとんどの GC-MS に接続可能
- 使い慣れたシステムを TG-MS にグレードアップ可能

試料観察に対応 | グミの試料観察 TG-DTA/GC-MS による測定結果

■ 試料観察



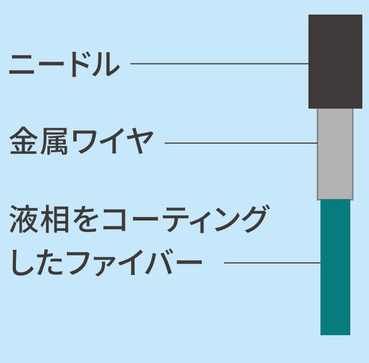
■ ガス分析



> 試料観察で 60℃付近から形状変化が見られ、100℃を超えると発泡が始まることが分かります。
>
> ガス分析の結果から、200℃付近までは発生ガスのほとんどが H_2O で、220℃付近で HMF、310℃付近で糖類、アミノ酸由来のピークが確認できました。

一時利用には固相マイクロ抽出（SPME）がおすすめ

SPME 固相マイクロ抽出



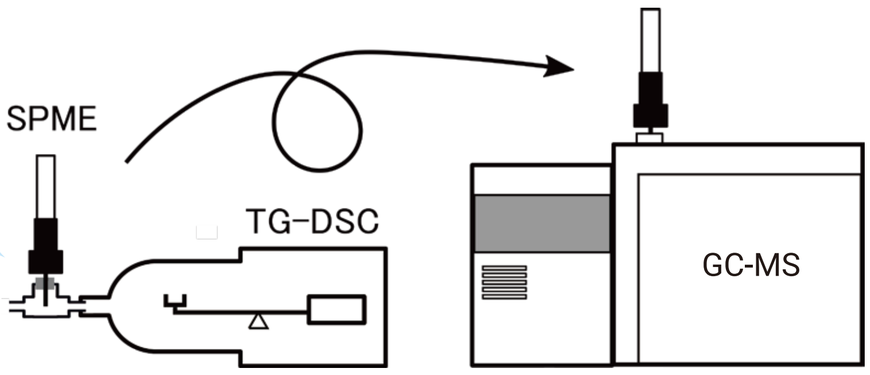
ニードル先の捕集材で
試料を迅速に捕集

今回は PDMS100 µm または Carboxen/PDMS を使用

TG-SPME

① 減量が確認されている温度範囲で TG 排気口にニードルを挿入し、SPME ファイバーでガスを捕集

② 捕集したガスを GC-MS インジェクションポートから注入して測定



Rigaku

rigaku.com

© Rigaku Holdings Corporation and its Global Subsidiaries. All rights reserved.